

平成30年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	I C Tを活用した小中連携プロジェクト
事業実施代表者名	校長 北 村 博 幸
実施附属学校名	北海道教育大学附属函館小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000 字程度で記述)	<p>本事業は、小中連携による「主体的・対話的で深い学び」の研究に資する ICT 活用の実践・検証を図るものである。</p> <p>本年度も、函館小学校・函館中学校は、情報活用能力育成に焦点をあてた研究実践を行っており、函館地区四校園（函館幼稚園・函館小学校・函館中学校・特別支援学校）が連携して行った「授業力向上セミナー」においても、その実践の一端を授業公開している。函館小学校においては、ICT 機器を活用した授業の取組として、大きく3つに分けて取組を進めている。</p> <p>① 教師側の資料提示や児童のノート指導等への活用 ② 児童の調べ学習や計算練習、プログラミング教育等への活用 ③ 情報モラル・情報安全教育への活用</p> <p>いずれの取組においても、本事業で導入した「iPad」とパソコン教室に設置している「PC」、各教室に設置している「実物投影機」「テレビ」を対象機材としている。</p> <p>上記①～③それぞれの取組内容は次の通りである。</p> <p>① ・各教科授業での教科書や着目点の提示、資料（表や写真、動画など）の提示、グラフ、図、表、図形の提示など ・児童のノートや作品、考えが表出する資料等の提示 ・体育等での体の動きの確認やボール運動での作戦立案など</p> <p>② ・計算ソフトを活用した計算練習 ・自己課題解決に向けた調べ学習 ・プログラミング体験の実施（PC）</p> <p>③ ・スマートフォン等の安全教室 ・SNS いじめ、情報安全教室</p> <p>日常の授業はもとより、研究大会やセミナー等の授業公開において、①教師による資料等を提示する際の活用が最も頻度が高くなっている。また、体育公開授業で自分の前転の様子を友達に撮影してもらい、修正をする学習にも活用された。次に、②自己課題の解決に向けた調べ学習では、修学旅行や宿泊研修、社会科見学等の見学先の下調べや、コース決定の話し合い、教科書に出てくる様々な地域や建造物、同じ作者の著書や描写される風景、外国の様子や特色など、多くの活用を行っている。</p> <p>現在、iPad は全部で 50 台ほどあり、1クラスの学習にのみ対応できる状況となっている。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どの様な学習場面で ICT 機器の活用が効果的か」を実践・検証する機会を多く行い、提案することができた。 ○ 児童が ICT 機器の活用方法を熟知することにより、効率的に活用することができるようになった。 ○ 児童の発表・表現方法の一つとして、プレゼンテーションソフトの活用や写真や資料の提示による発表が加わった。 △ ICT 機器の活用が頻回になるにつれて、iPad の台数が不足する（2学級同時使用）ことが多くなってきた。 △ 情報モラル・情報安全教育の充実を図っているが、回数増や対象学年の拡大、保護者への啓発など、さらに拡充する必要がある。
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器の活用が円滑に行われるよう、ICT 機器の増量・補充と更新を行う必要がある。 ・ 効果的な ICT 機器の活用について整理し、活用場面と活用方法を明記した集録の作成 ・ 情報モラル・情報安全教育に力を入れ、専門的人材を招聘した講演会を核に、保護者と連携し、年間を通した計画的な取組を進めたい。
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校研究大会 (H30.7.27 HPにて) ・ 授業力向上セミナー (H31.2.15 HPにて)

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。